

# 患者に治療選択の幅を

## 「いつでも、どこでも、誰でも」受けられる医療に

2014年の再生医療等安全性確保法の施行で、安心して治療が受けられるようになった「免疫細胞療法」。がんでは、三大療法（外科・化学・放射線）との併用による治療も本格化してきた。同療法を含む「がん免疫療法」

の啓発・普及に患者の立場から取り組んでいるのが「免疫の力でがんを治す患者の会」だ。同会の会長で医師、元厚生労働大臣の坂口力氏に自らのがん治療体験や活動の狙いなどを聞いた。

### がん免疫療法の普及に努める

#### 「免疫の力でがんを治す患者の会」

#### 坂口 力 会長（元厚生労働大臣）に聞く

—2009年に大腸がんを患った

「特に自覚症状があったわけではなく、医師からがんを告げられたときは『まさか自分ががんになるとは』ととても驚いた。今思えば厚生労働相時代（01～04年）のストレスや激務が大きかったのだろう」

「がん発見のきっかけは、ある大学病院の内科で検査を受けたときに、担当の医師から『元気な割には少し血が薄いですね』といわれたこと。赤血球の数値は正常範囲を若干下回る程度だったが、念のため再検査して大腸がんが見つかった。がんの進行度合いは『中程度』で、放置すれば余命3年といわれた」

—開腹手術でがんを取り除いたあと、抗がん剤治療を断った

「担当医が立派な先生で手術後、私に抗がん剤を受けるかどうかの選択を委ねてきた。抗がん剤治療は患者や病状によって効果はさまざま。治療を受けたからといって効く人もいれば、効かない人もおり、また治療しなくても再発しない人もいと説明された。医師として抗がん剤治療で苦しむ患者やその家族らを何度も見てきたことなどから、受けないことを決めた」

#### 治療後8年、再発なし

—その後、がん免疫細胞療法を選択した



「患者や国民が声をあけることが重要」と語る坂口会長

「手術から数カ月たち、何も治療をしないのもどうかと心配になり、がん免疫療法のひとつ、免疫細胞療法を試すことにした。医師として、人間が本来持つ免疫の力をよく理解しているつもりだ。免疫力を高めることでがんの再発を抑えられるのであれば、理にかなった治療法だ。免疫力がなければ、どのような治療をしても助からないだろうとも考えた」

—治療はどのように

「血液から採取した免疫状態の良い細胞を数千倍に増やして培養し、点滴剤と一緒に体内に戻す『免疫細胞療法』。半年間ほどの治療を受けたあと、年に1回、検査を含めて治療している。8年を経過したが、がんは再発していない。この治療法を選んでよかった」

#### 600の医療機関で実施

—この経験が患者の会を立ち上げるきっかけになった

「国内のがん治療の現状を変えたい、治療の選択肢を広げたいという思いから患者の会を立ち上げた。現在、国内では年約100万人ががんを患い、年約37万人ががんで亡くなっている。北米ではがん患者数が減少傾向にある一方、日本は高齢化の影響もあり増え続けている。厚生省の調査によると、薬物療法の副作用に苦しむ患者は03年から10年間で約2倍になったという結果もある」

「がん治療は外科療法（手術）、化学療法（抗がん剤）、放射線療法の三大療法が中心だが、免疫療法をはじめ、さまざまな新しい治療法や医薬品の研究が進んでいる。ただ、三大療法と免疫療法などの併用も症例数は増えているが、全体的に見れば、まだまだ少ないのが実情だ。免疫細胞療法は、ほとんど副作用がなく、安全な治療法として全国約600の医療機関で実施されている。もっと評価され、認知されてもよい、との思いを強くしている。患者や国民が声をあけることが重要。政治家や役所は国民の声を無視できない。患者が主導権を持ち、どの治療法を選択するかを選べる環境を整えていきたい」

#### 公的保険の適用目指す

—普及に向けての課題は

「医療現場ではまだまだ新しい治療法に対する拒否反応がある。役所も同様だ。医師の責任で自由診療を行っているのが現状だ。近年、免疫チェックポイント阻害剤の開発や、免疫療法と遺伝子療



さかぐち・ちから 三重県立大（現三重大）医学部卒。1972年の衆議院議員選挙で初当選し、医師から政界へ転身。93年労働相、2001年初代の厚生労働相などを歴任。12年政界を引退、16年から「免疫の力でがんを治す患者の会」の会長。医学博士。三重県出身。83歳。

法を組み合わせた新しい複合的な治療法などの研究も特に海外で進んでいる」

—患者の負担も大きい

「公的医療保険が適用されていないからだ。14年の再生医療等安全性確保法の施行によって免疫細胞療法は一般の自由診療とは異なり、法律下で安全性が担保された治療法になったにもかかわらず、自由診療のまま取り扱われている。一部の医療機関で実施が認められている保険診療との併用が可能な混合診療の適用を早期に実現したい。将来的には公的保険の適用をめざし、『いつでも、どこ

でも、誰でも』が受けられる治療として普及させていきたい」

—これからの医療は生活の質（QOL）の向上の視点も欠かせない

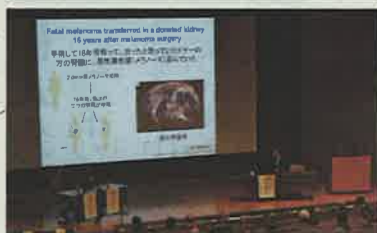
「がん治療で痛みを和らげる緩和ケアを提供する動きが広がっているが、末期がん患者向けが大半。三大療法と緩和ケアの中間的な治療の選択肢が国内では少ない。治療を受けながら仕事や日常生活を送る時代となってきたなか、医療界も治療の幅を広げるような取り組みを考えていくべきで、会の活動を通じてその動きを加速させたい」

### 免疫の力でがんを治す患者の会

2016年9月に発足。免疫細胞や免疫制御機構を活用する「がん免疫療法」の普及促進を目的とし、啓発活動やセミナー・講演会のほか研究助成などを実施している。

今年1月22日には、患者の会の発足記念となる「市民セミナー」を東京医科歯科大（東京都文京区）で開催し、約240人が参加した。

セミナーでは、珠玖洋・三重大教授が「がん治療の主役を目指す免疫療法」をテーマに基調講演。また、患者の会の坂口会長のほか、申間美昭・鶴田病院腫瘍外来部長、秋山七



患者の会の発足記念となる「市民セミナー」



患者の会が集めた署名

千男・水海道西部病院副院長をパネリストに迎えたシンポジウム「がんサバイバー医師が患者として語るこれからの免疫療法」や、医師とがん患者による対談企画「患者と医師が語る免疫療法」も行われ、参加者は熱心に耳を傾けた。

このほか、患者の会では現在、がん免疫療法の研究や普及促進のための署名活動も行っており、約3カ月で5000人を集めている。

同会の事務局は東京都新宿区下宮比町2-28、飯田橋ハイタウン518号、☎03・6280・7131、FAX03・6280・7071。URL <http://imcell-t-chikara.com>

4月27日  
銘柄  
水産  
X極洋水  
X白子水  
Xマル子水  
Xアカコ種苗  
Xサカタタス  
Xホクト  
Xホクヨウ  
X住石HD  
X白鉄鉱  
X三井製鋼  
X三井物産  
X石油資源  
X&Oエナジー  
建  
Xショボンド  
XミイトHD  
Xタマホーム  
XサンヨーH  
A1s.t.コーポ  
XインバースC  
XダイセキS  
X東ハサマ  
X東建建設  
XコシノHD  
XMISAWA  
XAB.HD  
X高松G  
Xソネット  
Xヤマウラ  
X大成建組  
X大林建組  
X清水建組  
X飛鳥建組  
X長谷川建組  
X長松建組  
X鹿島建組  
X大末建組  
X鉄建建設  
X西松建設  
X三住建設  
X前田建設  
X佐藤建設  
Xカシワ組  
X東鉄組  
Xイケン  
X清沼組  
X戸田組  
X熊谷組  
X青木組  
X北野建組  
X植木組  
X三ホーム  
X天作建  
XAPS三  
X東建建設  
X新日建  
Xニッポ  
X東亜道  
X前道組  
X白道組  
X東洋建組  
X東洋建組  
X五洋建組  
X大林道  
X大紀組  
X住友林業  
X日基礎  
X日成ビル  
XヤダSL  
Xハウス  
Xライト  
X積ハウス18  
X日特建  
X北陸電工  
Xコアテック  
X西部電工  
X四電工  
X中電工  
X関電工  
Xキンズ  
Xトレス  
X住友建設  
X日本建設  
X新日空調  
XND.S  
X九電工  
X三機工  
X日揮  
X中環  
Xヤマ  
X太平電  
X高砂金  
X三朝日工  
X朝日工  
X明星社  
Xダイデン  
X東多岐  
XOSJHD  
X洋工  
X千代化  
X新興アラン  
食  
X日本粉  
X白清粉G  
A日東富士  
X昭和粉  
X鳥越粉  
X中節飼  
Xフーのフ  
X東洋糖  
X三井製糖  
X清水糖  
X日新製糖  
X森永糖  
Xクリコ産  
X名糖家  
X山崎パン  
X第一パン  
Xモリフ  
X丸栄製菓  
Xカルビー  
X森永乳  
X六甲ハ  
Xヤクルト  
X明治HD  
X徳田メク  
Xプリマ